

硝子

やないがらす 箭内硝子株式会社郡山工場

こおりやま
福島県郡山市喜久田町字高蒲池221-173
電話／024195912710
FAX／024195913850
URL／<http://www.yanai-glass.co.jp/>



福島への想いを 桜に託して

灼熱の坩堝(るつぼ)で溶融したガラスを吹き竿に巻き取り、型に吹き込んで成形する型吹き。成形したガラスを回転盤で丹念に磨き上げる砂すり。小さな気泡や、かすかなサイズ違いも見逃さない検品作業。作業中の工場の中を見て回って驚いたのは、若い方や女性の多さ。「うちは若いスタッフが多そうですね。どんどん仕事を覚えてがんばっていきましょう。みんなで」と語るのは、専務の新井さん。「ハンドメイドでガラスを生産しているのは、福島ではうちだけです。どんな製品でもつくれますよ。」

照明ガラスまで、幅広い分野の製品を手がけてきた背景には、他社では生産することが不可能な製品を完成させる卓越した技術と、その技を伝承していく体制があります。ハンドメイドによる高品質が評価され、順調に成長を続けてきた事業にも、やがて転機が訪れました。リーマンショック後の不況と、それに追い打ちをかけるように起きた東日本大震災。自動車メーカーなど、安定した受注製品が減ってしまったのです。「それまでは、主にメーカーさんから注文を受けて製品を生産していましたが、初めて自分たちから発信していく製品づくりに着手し、私たち自身も前向きになれたんです」と話してくれたのは伊藤さん。そのことをきっかけに、いままて手がけていなかった食器の分野に進出し、若手や女性スタッフで企画・開発し、



④

完成したのが桜の花をモチーフにした文鎮や箸置き。テーブルに愛らしい桜の水滴が残る、「日本で一番売れているグラス」とも言われるへさくらさくグラスの製造も手がけています。今後も、福島のプロダクトデザイナーとのコラボレートなど、未知のチャレンジにも積極的に取り組みたい」と専務が語る背景にあるのは、福島を想う熱い心。「やはり、福島でこういう仕事を守っていくためにも、新しいことを始めていかなきゃと考えています」。春を呼ぶように、硝子の桜が満開です。



⑥



⑤

理想を求める 活気ある現場

- ① 溶融したガラスを型に流し込み、ハサミでカットする息の合った共同作業。
- ② ガラスを吹いてガラスに成形する作業は集中力が必要となる。
- ③ 気泡ひとつ見逃さない検品作業。新しい製品開発をきっかけに、桜の刺しゅうの入った作業着も導入した。
- ④ 専務取締役の新井泰治さんと、郡山工場 総務部長の伊藤喜代子さん。
- ⑤ すべての工程で、元気な若い女性が多い郡山工場。
- ⑥ 成形したガラスを回転盤で丹念に磨き上げる砂すり。



011

011 さくらさくグラス

(ロック)・・・[税込]12,940円／(タンブラー)・・・[税込]12,625円
女性も製造に参加。底に桜がデザインされた可愛いグラスは、水滴の跡が桜の形になります。



012

012 桜箸置き

(5個1組)・・・[税込]13,465円
桜の花びらをイメージ。福島県の「八重セレクション」に選定されました。



013-1

013-1 桜ひとひら

(5個1組)・・・[税込]13,675円
5つ花びらを合わせると桜の花。遊び心も粋な文鎮です。

013-2

013-2 桜

(1個)・・・[税込]1,260円
まるで桜の花を閉じ込めたよう。春爛漫、幸せ気分になる文鎮。

